

学校関係者評価報告

令和7年度の学校関係者評価委員会を開催し、「令和6年度 青山建築デザイン・医療事務専門学校の自己点検・自己評価」をもとに、学校関係者による評価を以下の通り実施した。

学校関係者評価委員会開催日：令和7年5月24日（土）

学校関係者評価委員：

1. 井野 雄介 医療法人社団親寿会 池永クリニック事務長
2. 白田 智樹 白田建築事務所 主宰
3. 本間 純子 (有)アリエルプラン・インテリア設計室 取締役
4. 片岡 幸三 建築学科2年 保護者
5. 岡村 亜弥 平成24年3月診療情報管理士専攻科 卒業

青山建築デザイン・医療事務専門学校

林校長、高林副校長、加藤広報部部長、
矢野教務部部長、山本総務部次長、武川教務部課長

令和6年度 自己点検・自己評価・学校関係者評価

青山建築デザイン・医療事務専門学校

1 教育理念・目標	自己点検・評価
(1) 理念・目的・育成人材像	
1) 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか) 本校の教育方針は「本校は、学校教育法第124条及び125条に基づく専修学校として、本校設置課程の工業分野では、建築の設計・監理・デザイン・施工、商業実務分野では、医療事務・診療情報管理の専門知識・技術を習得させ、自主的精神に充ちた学生の育成を目的とする。」	【点検評価】 教育方針について令和4年度一部を修正した。今後も産業界の変革等に適合させて行きたい。また、令和5年度も例年同様にHPや学生便覧にて学外や学生に対しても公開している。
2) 学外の方に対して教育理念等を明文化し、公開しているか 本校においては上記の教育方針の他、校訓、教育目標、さらに年度毎に経営方針が設定されている。	【点検評価】 HPや学生便覧を通して学外や学生の他、本校教職員に対しても新年度連絡会にて非常勤講師も含め、教職員に周知されている。
【委員会の意見等】 特になし	

2 学校運営	自己点検・評価
(1) 事業計画	
1) 運営方針に沿った事業計画を策定し共有しているか 例年2月末頃までに各部にて次年度の事業計画案を策定し、3月開催の定例理事会評議員会で次年度の予算と共に審議している。また、承認された事業計画は事業報告と共にHPにて公開している。	【点検評価】 令和6年度は事業計画どおりの事業活動や教育活動を行うことができた。
2) 学校の年間スケジュールはあるか 学則・教務規定やその他の規定にもとづき、年間行事予定表を策定している。学生便覧への掲載やHPにも公開している。	【点検評価】 令和6年度は例年通り策定し、教職員・学生・保護者等と共有できた。

(2) 運営組織	
1) 寄付行為、理事会会議規則等(法人)、学校の運営規則等が整備され、それらに従って理事会・評議員会(法人)、学校の運営会議等が開催されているか 寄附行為、教務規定等により、年2回の定例理事会、評議員会を実施。月2回の校務運営会議を実施している。	【点検評価】 令和6年度は予定通り実施することができた。また、私立学校法の改正により寄附行為が変更され令和7年4月1日より施行される。
2) 教職員の健康診断がされているか 毎年、4月から5月に実施している。	【点検評価】 令和6年度は予定通り実施した。また、再検査等の対象者はそれぞれ医療機関での受診を促した。
3) 出退勤管理簿があるか 常勤非常勤ともにタイムカードにて管理している。	【点検評価】 過去5年間は保存している。
(3) 教職員の評価・育成	
1) 授業評価の実施・評価体制はあるか 授業評価は、前期終了前に学生による授業改善アンケートを実施し、その評価内容を各科目の担当教員と共有して、次年度の授業改善に活用している。	【点検評価】 7月中旬に実施し、各科目の担当教員はアンケート結果を後期からの授業改善に活用した。
2) 教員の能力開発のための研修等がおこなわれているか 学内で、非常勤講師も対象とした「学生に対する指導力を修得・向上するための研修」と、建築系と医療事務系の各専門分野における研修を行っている。また、北海道私立専修学校各種学校連合会が主催する「職業実践専門課程に係る研修会」についても参加している。	【点検評価】 「学生に対する指導力を修得・向上するための研修」は、心理カウンセラーの方を講師として招き、6月に実施した。建築系と医療事務分野の専門分野における研修は、それぞれ令和6年12月に実施した。「職業実践専門課程に係る研修会」は8月と12月に開講され、全教員が参加し、学生の指導や他大学などの取り組みなどについて聴講した。

3)教育内容の改善を図るため、教職員と非常勤講師等との定期的な情報交換を行っているか 教育内容だけでなく受講態度に問題がある学生や成績不良の学生について、日常的に科目担当同士や担任と情報交換を行っている。	【点検評価】 左記の内容だけでなく設備の要望についても意見を取り入れ、対応している。具体的には、冷房のない1号館の暑さ対策として、遮光カーテンを各教室に設置した。
(4)人事・給与制度	
1)人事に関する制度を整備しているか 就業規則・非常勤教職員就業規則等は整備されている。	【点検評価】 育児・介護休業法の改正に伴い就業規則、育児休業規定、介護休業規定を変更し令和7年4月1日より施行する。
2)給与に関する制度を整備しているか 給与規定・退職金規定等は整備されている。	【点検評価】 令和6年度は変更等はなかった。
【委員会の意見等】 特になし	

3 教育活動	自己点検・評価
(1)教育方法・評価等	
1)講義および実習に関するシラバスは作成されているか 年度末までに、各科目の担当教員が次年度のシラバスを作成して、教務部で確認後にホームページで公開している。また、実務経験を有する教員が担当する科目については、「実務経験の生かし方」を明記し、授業の中でそれをどのように生かすかを記載している。	【点検評価】 学生には、授業の初回で授業運営進度計画表を提示し、各シラバスについては入学式までにホームページで公開しており、新入生に周知している。
2)学生によるアンケート等で、適切に授業評価を実施しているか(学習の目的を満たしているか、満足度を含めて定期的に確認しているか) 「教職員の評価・育成」の1)「授業評価の実施・評価体制はあるか」で前述したように、前期の終了前に年1回実施している。具体的には、「授業内容の満足度」「授業の進捗スピード」「教員の熱意」「学生管理」「授業準備」「質問の対応」「分かりやすさ」「定期試験の難易度」など12の項目について、学生に授業を4段階で評価させている。	【点検評価】 評価アンケートの結果を受けての対応は、各教員の裁量に委ねている。今後は、回数や低評価の授業への対応について検討したい。

3)カリキュラム作成メンバーの中に業界関係者など外部関係者」を入れているかまたはその意見を取り入れているか 建築系の企業や医療機関に勤務する実務者が非常勤講師として授業を担当したり、学校関係者評価委員や教育課程編成委員会の際、委員の方から意見を聞いたりすることで、授業内容やカリキュラムを見直すきっかけとなっている。	【点検評価】 委員の意見を取り入れ、カリキュラムの改善に努めている。令和8年度の入学生から建築設計デザイン科の「デザインコース」を「住宅デザインコース」とし、寒冷地にふさわしいデザインと実践的な設計能力を身につけ、ハウスメーカーや工務店など住宅業界で活躍する人材を育成するために「寒地建築概論」や断熱性能に関する授業を盛り込む予定で、それについてのカリキュラムを検討している。
(2)成績評価・単位認定等	
1)成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか 各教科の成績評価・単位認定の基準については、ホームページで公開しているシラバスに明記するとともに、授業でも説明している。進級・卒業判定については、入学時に配布する学生便覧に、教務規程の関連部分を抜粋して掲載している。	【点検評価】 成績は、定期試験終了後に個人成績表として学生に手渡ししており、保護者には就学状況表と合わせて、前期が終了する時期と年度末に郵送した。
2)各規程に基づいて適切に成績評価・単位認定、進級・卒業判定をおこなっているか 上記1)の評価基準をもとに、前期終了後と後期終了後の年2回の成績会議で単位認定している。不合格科目がある学生については、単位認定課題の提出とそれらの合否判定により、卒業・進級認定会議において校長が判定する。	【点検評価】 学科は定期試験の評点で評価した。実習については、提出物を複数の採点項目によって客観的に評価し、学生から受ける印象による評価や教員の恣意的な評価は避けている。
【委員会の意見等】 学校： 授業改善アンケートは前期のみ実施しているが、後期も授業内容が変わるため実施しても良いかもしれない。 委員： 介護系の授業はあるのか？ 学校： 現在は、医療秘書・クレーン・薬局事務コースにのみあるが、令和8年度からはなくなる。 委員： 来年度から「デザインコース」が「住宅デザインコース」に変更するため、就職も良くなることを願っている。 学校： 学生も今のコースは学ぶ内容が曖昧である。	

4 学習成果・教育成果	自己点検・評価
(1) 就職率	
1) 就職率の向上が図られているか(結果を分析し、就職指導・支援の改善をはかっているか) 後述する「5 学生支援」により、前年度に引き続いて高い就職率を実現することができた。令和6年3月末日現在において、建築系と医療事務系の2年課程については、就職希望者22名中21名(95.4%)が内定、診療情報管理士専攻科は4名中3名(75.0%)が内定を得た。別科である建築研究科の二級建築士コースは就職を希望する27名中25名(92.5%)が内定、一級建築士コースは、在籍2名中、就職を希望する1名が内定を得た。	【点検評価】 リモートによる会社説明会や面接試験が定着したが、企業側も学生側も対面での接触を重視している。教員側も柔軟に対応しながら、次年度は希望者全員の内定を目指す。
2) 学生の就職に関する目標に対して教職員に共有されているか 学生に報告書を提出させることで共有している。具体的には、①会社訪問・説明会報告書、②就職活動連絡票 ③就職試験報告書 ④内定報告書 ⑤インターンシップ・内定者研修報告書の5種類があり、月2回実施している定例の教職員会議においてクラス担任が活動状況を報告することで、他の教職	【点検評価】 左記によりクラス担任だけではなく、複数の教員で連携して、進路相談や面接試験の練習にあたっている。
3) 対外部に向けた就職実績を公表しているか(パンフレット・HP等) ホームページでは、過去3年間の学科別・男女別の卒業者数に対する就職者数、進学者数、就職先実績を掲載している。パンフレットでは、過去5年間の就職率、就職先実績、業種別割合、大学編入の実績を掲載している。	【点検評価】 実績を公表するだけではなく、本校への進学を検討する生徒・保護者、高校の先生に向けての資料になるため、見やすさにも配慮している。
(2) 資格・免許の取得率	
1) 資格取得率の向上が図られているか(目標とする資格試験等への合格率は全国平均と比較してどうか) 建築研究科(二級建築士コース)の学科試験の合格は36名中18名合格、製図試験は17名中8名合格となり、学科～設計製図の合格率は22.2%(全国 21.8%)であった。令和6年度に新設した建築研究科(一級建築士コース)の学科試験の合格は2名とも合格したが、製図試験は2名とも不合格であった(全国 8.8%)。診療情報管理士専攻科の認定試験は在籍4名中4名が合格した(全国 62.9%)。	【点検評価】 建築研究科(二級建築士コース)の在籍数が増えているが、登校しない学生も増え、合格率も下がっている。建築系のその他の資格においても、全国の合格率を下回るものが多い。資格対策講座の回数を増やしたり、授業内容を見直したりなど、合格率の向上に努めており、結果が出るまで改善を続ける。
【委員会の意見等】 学校： 男子1名が未定である。大工でインターンシップに参加したが、運転免許を持っていないため、不採用となる。卒業がきまったのが、3月だった。学力が低いこともあり、運転免許は難しいと感じる。 委員： 大工は人手不足のため、欲しいと思うが運転免許は必要である。 委員： 2級建築士の合格率が上がらないのは残念である。 学校： やる気を維持できるようにしたい。 学校： インテリアコーディネーター試験は7名受けて合格者がいなかった。 学校： 面接試験は担任だけではなく、他の教員も実施している。	

5 学生支援	自己点検・評価
(1)就職等進路指導	
1)就職等に関する支援部署・相談部署(就職担当部門)はあるか 教務部に就職課の担当者があり、クラスの担任教員と連携して学生の就職活動をサポートしている。学生と保護者には、入学式において配布する学生便覧に掲載されている組織図で周知している。	【点検評価】 左記のサポートにより高い就職率を実現できた。今後も、職員が連携して学生をサポートする。
2)企業からの求人票をまとめ、求人情報を学生に公開しているか 建築関連は281件、医療事務関連は127件の求人票を受け付けた。これらを本校2号館1階の掲示板に掲示するとともに、同じものをファイルに綴って卒業年次のクラスに配置している。更に、求人票を通し番号により管理して、企業名、所在地、業種と募集職種、勤務地をデータ化して、検索できるようにしている。	【点検評価】 左記により、求人情報を閲覧しやすいように配慮した。
(2)学生相談	
1)学生の健康管理を担う組織体制はあるか(学生の健康診断を実施しているか、また健康相談窓口は整備されているか) 年1回、4月下旬に行う健康診断の他、欠席が増えている学生については面談にて対応している。また地方から進学してきた新入生についても、近隣の医療機関を掲示物にて周知している。精神面で不安を感じる学生は、まず担任に相談する学生が多いので担任が対応し、専門的なケアが必要な場合は、専任講師による「こころ相談室」を5月より毎週金曜日の午後に開設している。	【点検評価】 手術の療養などで長期間欠席した学生はいなかったが、精神的に弱い学生など、外からみて判断できないケースが増えており、教務規定を拡大して対応した。学生からの相談は、まず担任が対応し、必要があれば複数の教員で対応した。尚、「こころ相談室」を利用した学生は無かった。
(3)学生生活	
1)学費の減免、特待生試験、学校独自の奨学金制度はあるか 学費(授業料)減免については、指定校推薦入学で5万円免除、診療情報管理士推薦入学で25万円免除、AO入学で8万円免除、家族優遇で10万円免除、大・短・専学卒優遇で10万円免除がある。特待生制度として筆記試験・面接・調査書から選考し、50万・20万・10万・5万円が授業料から免除される。学校独自奨学金については在校生特待制度があり、1年次の成績優秀者から選抜し、2年次に5万円の奨学金を支給している。	【点検評価】 昨今の社会経済状況を鑑み、令和7年4月入学生より、診療情報管理士推薦免除額を20万円から25万円に増額し、特待生免除額の最高額を40万円から50万円に増額とした。
(4)中途退学への対応	
5)退学者数を公開しているか 「職業実践専門課程の基本情報」にて各科毎また、退学率も含めHPにて公開している。	【点検評価】 令和6年度の退学者は5名。昨年度の10名から半減した。退学率は3.08%だった。

(5)保証人(保護者)との連携	
1)緊急時の保証人(保護者)等との連絡体制を確保しているか 一斉配信メールにて連絡体制を確保している。	【点検評価】 令和6年度の保護者の登録は98.7%で令和5年度は80.1%。
2)成績・素行不良の場合には、保護者等に連絡を取り、あるいは面談しているか 欠席が5日に達した学生については、クラス担任が保護者へ電話や文書で報告する。それでも、欠席が増えている傾向にある学生は教務部長や校長を交えた面談を行い、必要に応じて保護者を交えた面談を実施している。	【点検評価】 精神的に弱い学生や、持病による欠席が多い学生が増えているが、複数の教員できめ細かい対応を行った。また保護者への対応についても、後手に回らないように早めに対応した。
【委員会の意見等】 委員： さくら連絡網はスケジュールや行事等も確認でき便利で役に立っている。 委員： 欠席等の日数が確認できる「保護者連絡システム」というアプリがあるが、さくら連絡網では確認できるのか？ 学校： 現在使用している連絡網を確認してみる。	
6 教育環境	自己点検・評価
(1)施設・設備等	
1)教育上の必要性に対応した機材・備品を整備しているか 中長期計画のもとに、毎年の事業計画により整備している。	【点検評価】 令和6年度は職員用のノートパソコンの入れ替え。先送りしていた1号館コンピュータ室のPCの入替は令和7年度に実施する。
2)学内の整理・整頓・清掃に関して定期的に管理・チェックがされているか 清掃を委託している業者による環境衛生検査を毎日実施し、毎月末に報告をうけている。	【点検評価】 令和6年度は特に問題点は無かった。
(2)防災・安全管理	
1)防災・防犯設備(非常灯・消火器・警備システム等)が整備・点検されているか 防災設備は委託業者(北海道防災指導センター)、機械警備は委託業者(ベルックス)にて定期的に点検検査等を実施している。	【点検評価】 令和6年度の防災設備の点検は7月と12月に実施し、9月に連結送水管の耐圧試験を実施した。機械警備に関しては毎月報告を受けている。
【委員会の意見等】 特になし	

7 学生の受入れ募集	自己点検・評価
(1) 学生募集活動	
1) 学校案内に、育成人材像、特徴、目指す資格・免許等をわかりやすく紹介しているか 学校案内の掲載内容の中で仕事のやりがい、職種の特徴、取得できる資格、目指せる職業について詳しく紹介している。また、就職率や資格の合格率なども毎年、最新の実績を掲載し、紙面の中でわかりやすく紹介している。	【点検評価】 新しい学校案内では、現役で活躍するOB、OGの写真や作品を掲載している。また、好きな教科や内容について在校生のコメントなどを載せて見る側から、わかりやすく伝わるように配慮した。
2) 学校説明会等による情報提供(育成人材像、評価手段及びその基準、目指す資格・検定・コンペ・学費・教材等の情報)を行っているか 全道各地で行われている、学校説明会などに参加し、入試制度説明、本校の特徴や学校生活、目指すことができる資格や検定試験、卒業後の進路(就職先)、学費など本校について様々な情報を提供している。	【点検評価】 学校説明会は進学系業者や高校独自開催のものがあるが、企画されたものや依頼された説明会はすべて参加し、高校生への情報提供を幅広く行った。
3) 体験入学・オープンキャンパス等を実施し、多くの人に教育内容・施設設備等の紹介をしているか 高校生や保護者、既卒者(大学生・社会人)を対象とした体験入学(オープンキャンパス)を開催している。施設見学、体験実習、入試制度・就職状況説明、進学相談会などを実施。遠方からも参加しやすいように地域に応じた交通費の補助を行っている。また道内各地域から無料送迎バスを運行する企画も取り入れ、実施している。	【点検評価】 通常体験入学を16回、日帰り無料バス体験入学を11回、無料宿泊付きバス体験入学を1回実施した。予定通り合計28回開催した。
(2) 入学選考	
1) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に入学者選抜を行っているか 「学生募集要項」を作成し、各種の入学選考について詳しく明記している。また、出願の種類において志望動機作文、調査書、推薦状などの提出による書類選考や、面接が必要な選抜方式があり、各出願種別ごとに本校の合格基準に照らし合わせ公正かつ適切に入学者選抜を行っている。	【点検評価】 選抜については道学事課や北海道専修学校連合会が取り決めた規則があるので、これからも遵守した上で入学者選抜を行っていきたい。
2) 社会人の「学び直し」に対応し、社会人を積極的に受入れているか 現役の高校生以外にも既卒者の方も積極的に受け入れしている。学校案内やホームページ等にも社会人から入学し、卒業就職したケースを紹介している。また、全学科で職業実践専門課程の認定を受けている。	【点検評価】 社会人を受け入れをさらに促すために建築学科、建築設計デザイン科、医療事務学科で専門実践教育訓練給付制度を利用できるようにした。

(3)学納金	
1)学納金は妥当なものとなっているか 本校の入学金(初年度のみ)は、全学科15万円。年間の学費(授業料+施設維持費)は、建築学科および建築設計デザイン科で97万円。医療事務学科は81万円。診療情報管理士専攻科は83万円。その他、各年次ごとに用具・教科書・行事費が必要である。	【点検評価】 入学金や建築系学科の学費は競合他校と比較するとほぼ同額。医療事務系学科では競合他校より若干、低い金額となっている。当面の間、この金額を維持していきたい。
【委員会の意見等】 委員：オーキャンや相談会に参加した学生の入学率はどうか？ 学校：昨年度の相談会は全道で229回行われ、ほとんどの入学生はどこかで参加している。オーキャンに参加してくれた人の出願率は、50%であった。例年はもう少し良いが昨年は下がったため、今年度から体験メニューを変更した。	
8 教育の内部質保証システム	自己点検・評価
(1)教育情報の公開	
1)教育活動に関する情報公開が適切になされているか 「職業実践専門課程の基本情報」の他、学校のホームページで (1)学校の概要、目標及び計画 (2)各学科等の教育 (3)教職員 (4)キャリア教育・実践的な職業教育 (5)様々な教育活動・教育環境 (6)学生の生活支援 (7)学生納付金 各項について情報公開している。	【点検評価】 5月に更新して学校のホームページ公開している。
2)学校関係者評価結果を公表しているか 学校関係者評価委員会終了後、速やかに本校HPに公開している。	【点検評価】 遅延なく委員会終了後にHPに公開した。
【委員会の意見等】 学校：今回の評価も、来週または再来週までにはHPに掲載する。	

9 財務	自己点検・評価
(1) 監査	
1) 私立学校法及び寄附行為に基づき適切に監査を実施し、理事会、評議員会に報告しているか 毎年5月に法人の業務、法人の財産状況、理事の業務執行状況等の監事(2名)による監査を実施している。監査報告書を作成し、定例理事会評議員会にて監査報告をしている。また、会計士による監査も同日に実施しているが、会計監査報告書の作成は免除されている。	【点検評価】 令和6年度の監査は5月8日に実施し、5月17日の理事評議員会にて監査報告した。
(2) 財務情報の公開	
1) 財務情報公開の体制を整備し、適切に公開しているか 平成27年4月に設定の情報公開の基本方針に基づき、貸借対照表、資金収支計算書、事業活動収支計算書、財産目録、監査報告書をHPに公開している。	【点検評価】 過去3年分を公開している。令和3年度は定例理事評議員会終了後に公開。
【委員会の意見等】 学校： 今月16日に理事会を開催し、既にHPに掲載している。	

10 社会貢献・地域貢献	自己点検・評価
(1) 社会貢献・地域貢献	
1) 地域に対する公開講座、教育訓練(公共職業訓練等)の受託を積極的に実施しているか 独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構からの委託による求職者支援訓練について、令和5年度は「医療事務科(短時間) 6か月」と「医療事務科(短時間) 3か月」の2講座を受託し、求職者を対象とした職業訓練を実施したが、令和6年度は担当職員が育児休暇中のため、実施を見送った。	【点検評価】 令和7年度から、担当職員が育児休暇から復職するため2～3講座を実施する予定である。
2) 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか 札幌市委託事業の障がい者活動支援事業で、施設で製造したパンの販売を学校で行っている。また、文部科学省が主催する道内の中学生を対象とした職場体験「次世代人材職業体験推進事業」と、札幌市教育委員会が主催する「進路探求学習オリエンテーリング事業」による、札幌市内の中学生を対象とした職業体験講座の受け入れを積極的に行った。	【点検評価】 パンの販売については、月1回実施した。「次世代人材職業体験推進事業」については、59校282名の生徒を受け入れた。「進路探求学習オリエンテーリング事業」では、夏休み期間中に2回開催し、22名の生徒と14名の保護者が参加した。

【委員会の意見等】

特になし

【最後に】

委員： 9月から建設企業法が変わり、申請から施工までが1週間だったのが、70日となったため、住宅を建てたくても建てられなくなってきている。また人手も不足している。カリキュラムが増えたことは良いことで、「木造の構造設計と、省エネに関するカリキュラム」も増えれば良いと思う。

委員： 保険証からマイナンバーカードに変更し、IT化が進んでいるので、新しいことを教えて欲しい。また、最近は「クレーム対応」が苦手である。アルバイト経験がある人はいいが、友達同士で話しあったりしてほしい。

委員： インテリアコーディネーターの受験者は増えたが、中々結果には結びつかないがきっかけにはなった。
Webマガジンに家づくりのアイデアなど新人向けのコメントを書いている。よかったら学生に案内し是非読んでもらいたい。